

# ガイドライン骨子案について

---

総合政策局 共生社会政策課

本ガイドラインはトイレ設置数に係る基準の点検・見直しに関する共通事項や基本的な方針を示すものである。

## はじめに

- 検討経緯、 ○ ガイドラインの目的、 ○ ガイドラインの構成 等

## 第1 現状と課題

- 行列に並ぶことへの不満、 ○ 行列の類型（一時的・局所的）、 ○ トイレ設置数の実態、
- 行列の主な要因（女性の社会進出・トイレの利用環境の変化）、 ○ 面積的制約・予算的制約、
- トイレの安全・安心の確保、 ○ パブリックトイレに対するニーズの多様化 等

### 2-1 基準のあり方

※男性便器数とは、男性の大便器と小便器の合計を指す。

#### ○ 基準の考え方

→ **男女の待ち時間の平準化**のためには、**男女のトイレの処理能力の均等化が必要**である。トイレの設置数に関する基準の点検・見直しを行う際には、**原則として、トイレの利用者が概ね男女同数である施設においては、女性便器数が男性便器数以上となる基準とすること**を基本的な考え方とする。その上で、**各施設において処理能力が均等となる基準を設定するべきである。**

#### ○ その他の留意点

→ **男性の大便器と小便器の比にも留意する。**

### 2-2 適用のあり方

#### ○ 適用の考え方

→ 実際の施設に基準を適用する際には、**点検・見直し後の基準を出発点として、利用者の特徴、男女の面積比、新設・改修の違い等を考慮する。**

#### ○ データの収集・反映

→ **利用者の特徴を把握するためには、利用者の予測・実測等が重要である。**

### 3-1 単体のトイレにおける取組

- トイレの増設、 ○ 男女の便器数の柔軟な変更、 ○ 動線計画、 ○ レイアウトの工夫、
- 個室の目的外利用への対応、 ○ 行動変容の促進、 ○ 空き状況の可視化 等

### 3-2 複数のトイレにおける取組

- 施設内の連携（分散配置、空きトイレへの誘導 等）
- 地域内の連携（トイレマップ、トイレの利用に関する協定 等）

- トイレ環境の改善による効果、 ○ 社会情勢の変化に合わせた見直しの必要性 等

## 第3 行列改善に向けた取組

※適宜、事例集を参照

## おわりに

- トイレの利用に際して、**男女で待ち時間に大きな差が生じている状況は改善すべきであり、待ち時間の平準化が図られる必要がある。**
- これを踏まえ、トイレ設置数の基準については、男女の待ち時間の平準化を図るため、**男女のトイレの処理能力を均等化させることをを目指すこととする。**
- なお、トイレの利用のされ方は、各施設の利用者の特徴により大きく異なることから、男女の待ち時間の平準化を図るために、**各施設に応じた処理能力の均等化を目指すことが重要である。**

<待ち時間の平準化と処理能力の均等化について>

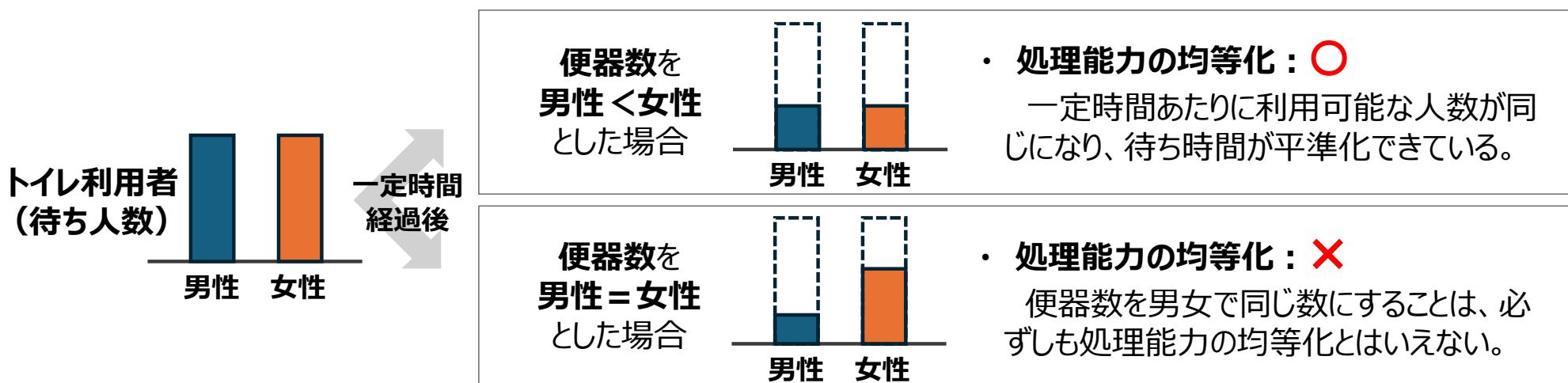
**待ち時間の平準化**とは、

- ・ 実際のトイレにおいて男女の待ち時間の差をなくすこと
- ・ 男女の待ち時間の差が生じないように基準を設定すること

**処理能力の均等化**とは、

- 利用者の特徴（男女別の人数、属性、利用頻度）等を踏まえて、待ち時間が平準化されるように、一定時間あたりに利用可能な人数を設定し、男性便器数と女性便器数を決定すること

■ 例えば、**利用者が男性50%：女性50%の場合**、



- 便器数の検討にあたっては、**トイレの利用者が概ね男女同数である場合**、通常女性の方が長い時間を必要とされること等から、**女性便器数は男性便器数※より多くなるべきである**。一方で、現状としては、男性便器数が女性便器数より大幅に多い施設が相当数存在している。（次ページ参照）
- 以上を踏まえ、学会や施設管理者等を対象として、「**トイレの設置数に関する基準の点検・見直しを行う際には、原則として、トイレの利用者が概ね男女同数である施設においては、女性便器数が男性便器数以上となる基準とすること**」を基本的な考え方（案）とする。
- その上で、**各施設における利用者の特徴等を踏まえ、男女の待ち時間が平準化された基準**（男女のトイレの処理能力が均等となる基準）を設定するべきである。
- なお、既に利用者の特徴等を踏まえ、適切な基準が設定されているものは除く。

※男性便器数とは、男性の大便器と小便器の合計を指す。

＜基準の考え方のイメージについて＞ ※ トイレの利用者が概ね男女同数である施設の基準を想定している。

## 現行の基準

**女性便器数が  
男性便器数より  
少なくなる基準  
(女性の方が待つことが  
前提となっている基準)**

## 基準の点検・見直し

＜基本的な考え方（案）＞  
**原則として、トイレの利用者が概  
ね男女同数である施設において  
は、女性便器数が男性便器数  
以上となる基準とすること**

## 点検・見直し後の基準

**女性便器数が  
男性便器数以上  
となる基準 ※  
(男女の待ち時間が  
平準化された基準)**

※ 適切な男女比は、施設に  
より異なる。（1:1.5等）

## 〈便器数の試算例〉

### ■試算の仮定

- 占有時間は、男性大300秒、男性小30秒、女性90秒とする。(現行の空気調和・衛生工学会の規準で示されている事務所における占有時間の目安を使用している。)
- 男性は、大便器と小便器を1:1の割合で利用するものとする。(実際には、小便器の利用割合がより高くなることが想定される。)

便器を16基～17基程度設置できるトイレにおいて、男女の処理能力を均等化させる(一定時間あたりに利用できる人数を同じにする)と、

### ■利用者が男性50%：女性50%の場合



### ■利用者が男性60%：女性40%の場合



### ■利用者が男性62.5%：女性37.5%の場合



※ 本試算例は、一定の仮定に基づいて便器数の目安を示すものであり、上記の3つの場合における基準を示すものではない。

## 〈トイレ設置数の実態調査の結果〉

※ 第1回協議会の資料2「事務局説明資料」より抜粋

	施設	サンプル数 (施設数)	男性(大+小) : 女性の平均値
1	鉄道駅	190	0.63
2	SA・PA	52	1.07
3	道の駅	50	0.96
4	空港	35	0.66
5	旅客船ターミナル	28	0.77
6	バスターミナル	14	0.71
7	商業施設	22	1.19
8	劇場・ホール	13	1.93
9	スタジアム・アリーナ	12	0.98
10	映画館	5	0.89
11	美術館・博物館	4	1.02

※ 男性の便器数を1としたときの男女比を示している。

※ 施設内の複数箇所にトイレが設置されている場合は合計している。

※ 商業施設には、百貨店・ショッピングセンターが含まれる。

※ バリアフリートイレ等の男女共用のトイレは除いている。

- 女性トイレに限らず、男性トイレにおいても混雑・行列が発生する場合がある。基準の検討にあたっては、男性の大便器と小便器の比にも留意する必要がある。
- 例えば、朝の時間帯に利用者が集中している（集中することが見込まれる）施設においては、小便器より大便器の比率を高めることが効果的であると考えられる。

## ＜男性トイレの大便器と小便器の比について＞

	施設	サンプル数 (施設数)	男性の大便器／ 小便器の平均値
1	鉄道駅	190	<b>0.65</b>
2	SA・PA	52	<b>0.49</b>
3	道の駅	50	<b>0.59</b>
4	空港	35	<b>0.71</b>
5	旅客船ターミナル	27	<b>0.66</b>
6	バスターミナル	14	<b>0.78</b>
7	商業施設	22	<b>0.75</b>
8	劇場・ホール	13	<b>0.47</b>
9	スタジアム・アリーナ	12	<b>0.50</b>
10	映画館	5	<b>0.54</b>
11	美術館・博物館	4	<b>0.55</b>

※ 小便器を1としたときの比を示している。 ※ 大便器のみのトイレを除く。

※ 施設内の複数箇所にトイレが設置されている場合は合計している。

※ 商業施設には、百貨店・ショッピングセンターが含まれる。

## ＜排便の時間帯について＞



出典) 天藤製薬株式会社調べ

- SA／PA（サービスエリア／パーキングエリア）、劇場・ホール及びスタジアム・アリーナにおいて、大便器の比率が低い。
- 現行の空気調和・衛生工学会の規準（寄宿舎、学校を除く。）により算出される大便器と小便器の比（小便器を1とする。）と比較すると、実際の施設の比は学会の規準により算出される比より小さい傾向にあることが伺える。（小便器が多く設置される傾向にあることが伺える。）

出典) 国土交通省調べ

- トイレの利用のされ方は、各施設の利用者の特徴（施設の用途や利用者の属性等）により大きく異なることから、基準をそのまま適用するのではなく、施設に応じた調整を行うことが重要である。
- については、点検・見直し後の基準を出発点として、各種データ（建物用途、テナント計画、混雑時期等）を収集・反映させる必要がある。

＜適用の考え方のイメージについて＞

検討のスタート

検討のゴール

点検・見直し後の基準

● : ●



男女のトイレの面積を  
同じにすることを  
前提とした検討



既存施設における  
便器数の男女比の踏襲

反映

データの収集

施設の用途  
利用者の属性  
混雑時期  
トイレの位置  
周辺施設 等

便器数の男女比

▲ : ▲

施設に応じた  
調整を行うことが重要

- 施設に応じた調整を行うためには、利用者の特徴を把握することが必要となる。そのためには、以下の表に示す観点に基づき、**利用者の予測・実測**を行うことが必要である。この際、類似の施設におけるトイレの利用状況を参考にすることも考えられる。
- また、アンケートやヒアリングを通じて、**利用者のニーズを把握**することも重要である。一般の利用者に限らず、施設の従業員やメンテナンスを行う清掃員等の意見を聞くことも考えられる。
- その他、**データの収集・反映**にあたっては、**長期的な視点**も重要である。人口減少や少子高齢化、女性の更なる社会進出等を踏まえ、次の建替え・改修等までの期間を見据えた検討が必要である。

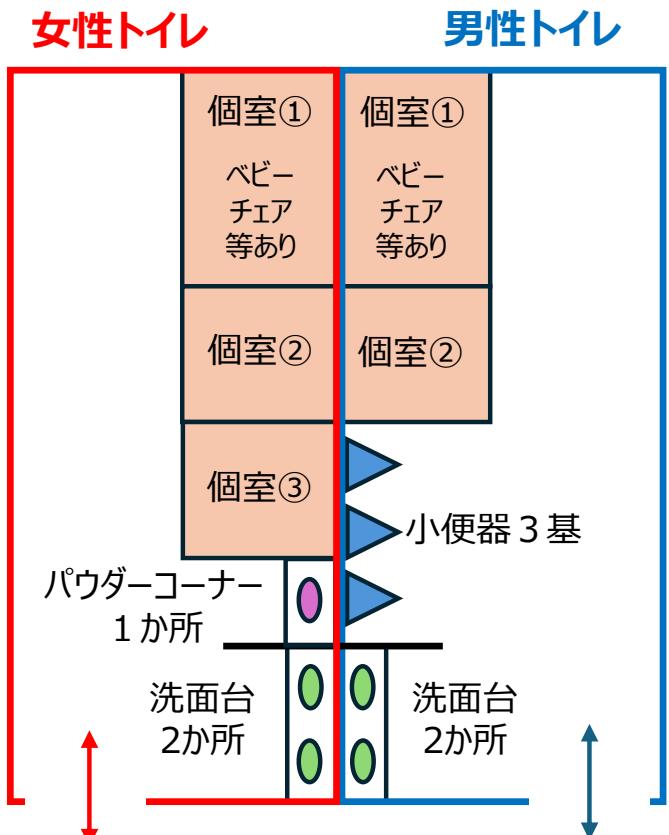
＜データの収集・反映のイメージについて＞

観点	データ例	反映例
施設の用途	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業施設では、女性の利用者が多くなる場合があること</li> <li>・アリーナでは、イベントに応じて利用者の男女比が異なること 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の利用者が多くなる商業施設においては、女性便器数の比率を高める。</li> </ul>
利用者の属性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の利用者が多い場合、利用回数が多くなることや占有時間が長くなることが見込まれること</li> <li>・子連れのファミリーの利用者が多い場合、子どもの補助等により占有時間が長くなることが見込まれること 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の利用者が多く見込まれる施設においては、便器数を多くする。</li> </ul>
混雑時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節、曜日、時間帯により、トイレの利用者が増減すること</li> <li>・季節による衣類の変化等により、トイレの占有時間が変わること 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の通勤時に男女ともに混雑しており、特に男性トイレにおいて大便器の混雑が見られる場合は、大便器の比率を高める。</li> </ul>
トイレの位置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食テナントの近くのトイレでは、利用回数が増加すること</li> <li>・施設の出入口に近い下層階のトイレでは、上層階のトイレに比べて利用回数が多くなること</li> <li>・交通機関の離発着スペースのトイレでは、利用回数が増加すること 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食テナントの近くのトイレにおいては、他のトイレより便器数を多くする。</li> </ul>
周辺施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近傍にスタジアム・アリーナや劇場・ホール等がある場合は、イベント終了時に利用回数が増加すること 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタジアムが近くにある駅においては、周辺トイレの設置状況を踏まえながら、スタジアムと連携の上、便器数を多くする。</li> </ul>

- 男女のトイレの面積を同じにすることを前提として便器数の配置を検討した場合、適正な便器数を設置することが困難になることが想定される。
- 男女のトイレの面積は、男女で同じ面積とすることを前提にするのではなく、適正な便器数や必要となる設備等を踏まえた上で設定すべきである。（なお、検討の結果として面積が同じになる場合も考えられる。）

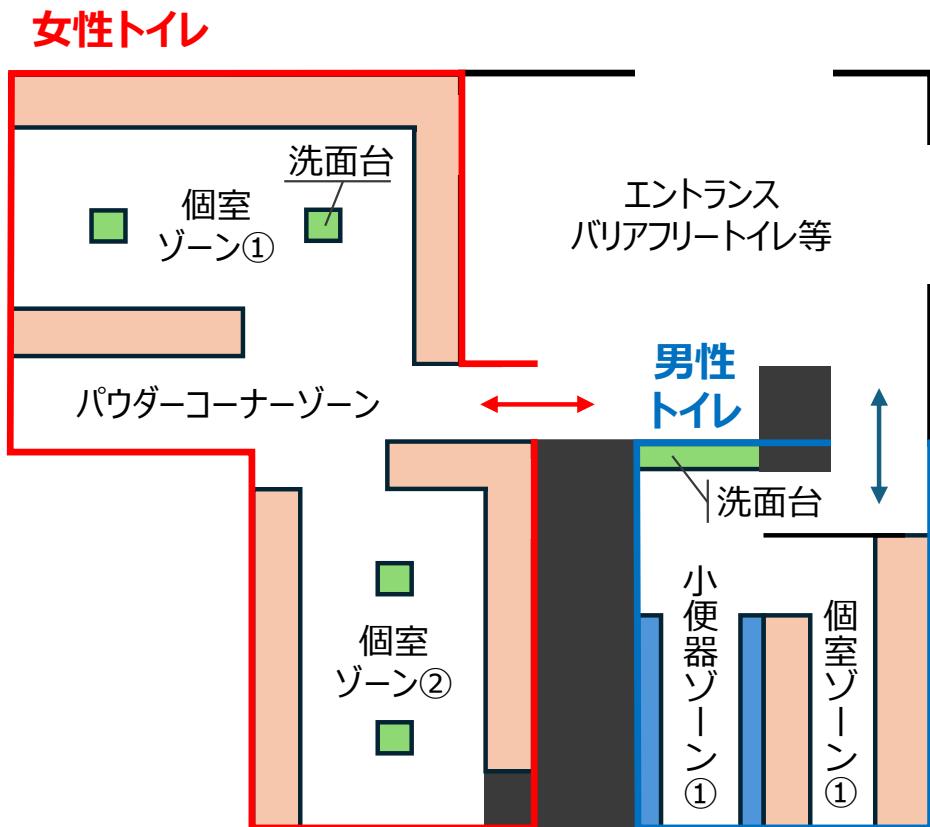
<男女のトイレの面積が同じ事例>

■A施設 男性大：男性小：女性 = 2 : 3 : 3  
(男性便器数：女性便器数 = 1 : 0.6)



<男女のトイレの面積に差がある事例>

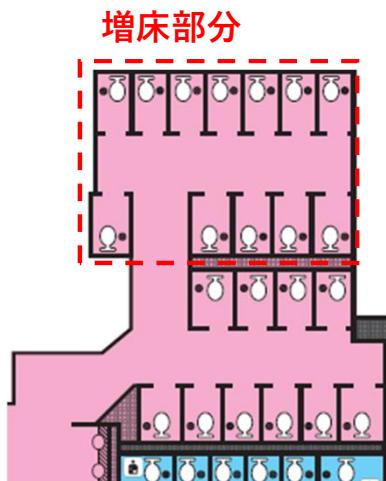
■B施設 男性大：男性小：女性 = 13 : 16 : 46  
(男性便器数：女性便器数 = 1 : 1.59)



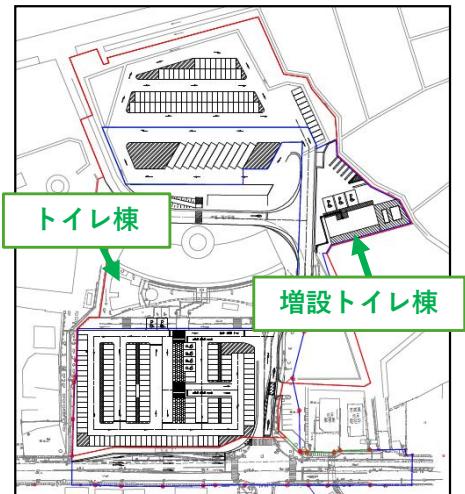
- **新設** (建替えを含む。)においては、**適正な便器数が確保**されるように、**可能な限り十分なトイレの面積を確保**することが望ましい。十分なトイレの面積が確保されることにより、将来の利用者の変化に応じた改修が容易になるだけでなく、円滑な動線の確保や清掃容易性の向上などの日常的な混雑の抑制にも繋がる。
- **改修**においては、面積的制約から**便器数を増加させることが困難**な場合が多いこと等が想定され、この場合には**建替え等の際に改善**を図る必要がある。
- 一方で、常態的に混雑・行列が発生している場合には、大幅に便器数が不足していることが想定される。こうした場合は、施設・敷地の一部を新たにトイレとして整備し、便器数を増加させることを検討すべきである。
- なお、**便房の広さを狭くすることにより便器数を増加させることは、トイレの利便性を低下させ、かえって占有時間を長時間化させることに繋がる可能性**があること等に留意されたい。

## ＜便器数を増加させた事例について＞

- JR東海 新大阪駅  
トイレの面積を拡張し、便器数を増加させている。



- あ・ら・伊達な道の駅  
敷地内に別棟としてトイレ棟を新設し、便器数を増加させている。

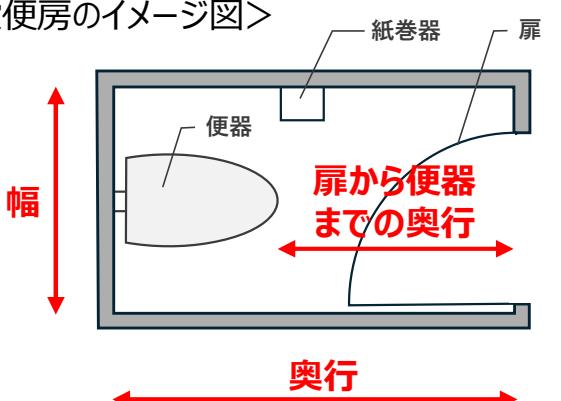


出典) 女性用トイレ行列解消の取組課題対策事例集より

## ＜便房の広さについて＞

- 便器の大きさや必要となる設備（紙巻器、手すり等）などを踏まえ、利用者が立ち座りの際にゆとりをもって利用できるような便房の広さを確保することが望ましい。（施設の用途、利用者の属性等によって必要となる広さは異なると考えられる。）

### ＜一般便房のイメージ図＞



- 便器数の少ないトイレ※においては、**故障時のリスク等を考慮して、女性便器数を男性便器数以上とすることが困難な場合**がある。

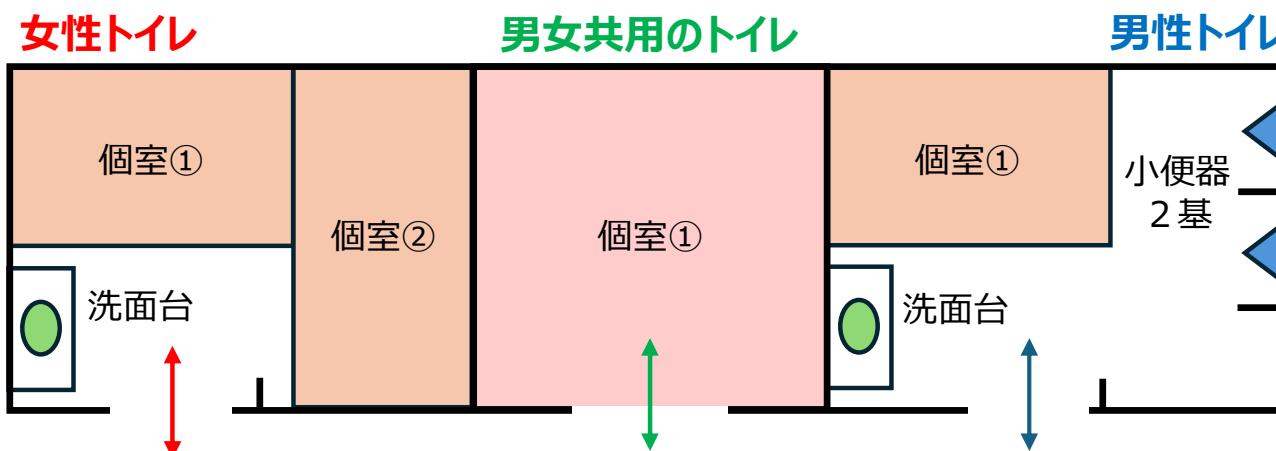
※ 男性大・男性小・女性の便器数が2基程度しか設置できないトイレや、小規模な飲食店等における1～2基程度しか設置できないトイレ 等

- したがって、便器数の少ないトイレにおいては、**別途、故障時のリスク等を踏まえた合理的な便器数を設定することが必要**である。
- また、便器数の少ないトイレにおいては、男女別のトイレを設けた上で、多様な設備や機能等を有する男女共用のトイレを整備し、男女別トイレと設備や機能等をシェアすることも手段の一つとして考えられる。

#### ＜便器数の少ないトイレのイメージについて＞

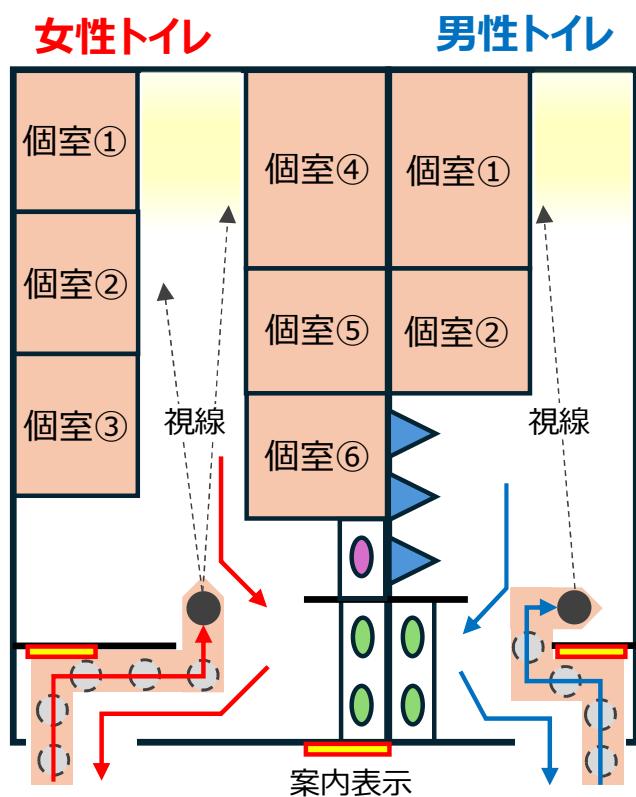
- ・ 下の図のようなトイレの場合、男性トイレを個室2つのみとすることも考えられるが、トイレ利用の効率性を考慮すると小便器を設置することが合理的である。この場合、小便器を1基のみとすることも考えられるが、故障時に利用できなくなるリスクがあるため、小便器を2基設置することが合理的である。
- ・ 下の図のようなトイレにおいて、仮にもう1つ個室の整備が可能となった場合、混雑・行列の発生が見込まれる場合は女性トイレの個室を整備することも考えられるが、故障時のリスクを考慮して男性トイレの個室を整備することも合理的である。
- ・ また、多様な設備や機能等を有する男女共用のトイレがあれば、面積的制約や予算的制約によって男女別のトイレに十分に整備できなかった設備や機能等について、男女共用のトイレと男女別のトイレでシェアすることができると考えられる。

※ バリアフリートイレである場合、車椅子使用者等による利用への配慮が必要である。



- **行列改善に向けた取組**には、トイレの増設に限らず様々なものがある。改修等により、**直ちにトイレの増設が困難な施設においては、導入可能な取組から行うことが重要**である。
- また、**施設の特徴に応じた対策を行うことも重要**である。例えば、イベントによって施設利用者の男女比が大きく変動する施設においては、新設の段階であらかじめ男女の便器数を柔軟に調整できる取組（トイレの間仕切りの位置の変更、トイレのサインの切り替え等）を導入することが重要である。

## 〈単体のトイレにおける取組のイメージ〉



※ 右表に示す取組のうち、一部の取組をイメージとして図示している。

分類	取組例
トイレの増設	・ トイレの増設
男女の便器数の柔軟な調整	・ トイレの間仕切りの位置の変更 ・ トイレのサインの切り替え 等
動線計画	・ 待ち行列の位置の明確化、・一方通行の動線 等
レイアウトの工夫	・ 個室の空き状況が確認しやすいレイアウト 等
個室の目的外利用への対応	・ パウダーコーナーの設置、 ・ 洗面台（鏡なし）とパウダーコーナーの区分 等
行動変容の促進	・ 個室内のモニターによる待ち状況の情報提供、 ・ 掲示による意識啓発の促進 等
空き状況の可視化	・ 個室の空き状況の可視化（フラッグ等） 等
洋式化の推進	・ 和式便器から洋式便器への改修
メンテナンス性の向上	・ 湿式清掃から乾式清掃への変更、 ・ デジタルを用いた故障の予測と事前対処 等
便房の利便性	・ 便房の広さの確保、・荷物フックの設置、 ・ ボタン配置の統一（JIS規格）、・多言語対応 等
照明計画	・ 奥の個室の利用を促すための照明（奥を明るく）

- 施設内のトイレの連携として、トイレを分散配置し、デジタルサイネージ等により空きトイレへ誘導することが効果的である。その際、トイレ間の間隔やトイレ毎の規模を適切に設定することも重要である。
- また、地域内のトイレの連携として、トイレの利用機会を分散させるため、地域のトイレの位置情報を地図にマッピングして公表することも有効である。
- その他、一部の自治体において、協力の得られた店舗や寺社等の民間トイレを公共トイレとして開放してもらう取組も行われている。この取組に倣い、予算的制約等により、一事業者においてトイレの増設を行うことが困難な場合は、事業者間で空きトイレへの誘導を可能とする協定等を締結することも考えられる。また、複数の事業者がトイレを共同整備することも考えられる。

## <TOKYOトイレマップの事例（東京都）>

※ 実証期間：令和4年11月1日から令和5年1月9日まで

地域のトイレの位置情報を地図にマッピングして公表することにより、トイレの利用機会を分散することができると考える。



出典) 女性用トイレ行列解消の取組課題対策事例集より

## <トイレの利用に関する民間協力の事例（町田市）>

町田市では、「公共トイレ協力店制度」を運用しており、市民や来訪者がいつでもどこでもトイレを利用できる環境を確保するため、協力の得られた市内の店舗を「公共トイレ協力店」としてホームページ等で公表している。（協力店に対しては謝礼金を支払っている。）



トイレ利用協力店舗やトイレ利用協力寺社に貼るステッカー

出典) 町田市ホームページより

- トイレ環境の改善により、施設利用者の満足度が向上するという調査結果が示されている。また、トイレの使いやすさが利用する施設を選ぶ際に影響しているという調査結果が示されている。
- その他、トイレのみの利用のために施設を訪れる人が一定数存在する調査結果が示されており、当該施設における消費にも繋がっているという調査結果が示されている。
- 最後に、本ガイドラインについては、今後の社会情勢の変化等を踏まえて見直しが必要であり、継続したトイレの利用に関するデータの蓄積や行列解消に資する事例の集積を期待したい。

## ＜ウェルビーイングと職場のトイレ環境の関係 (株式会社LIXIL、横浜市立大学)＞

- トイレへの満足度が高い人ほど、仕事への満足度も高く、日々の生活全体にもポジティブな影響が広がる。
- 「トイレの満足度→仕事の満足度」の影響度は、男女で統計的な差がなく、トイレに対する満足度が形成されれば、性別によらずその後の仕事への好影響を与える。



項目による影響度は、男女で異なる。

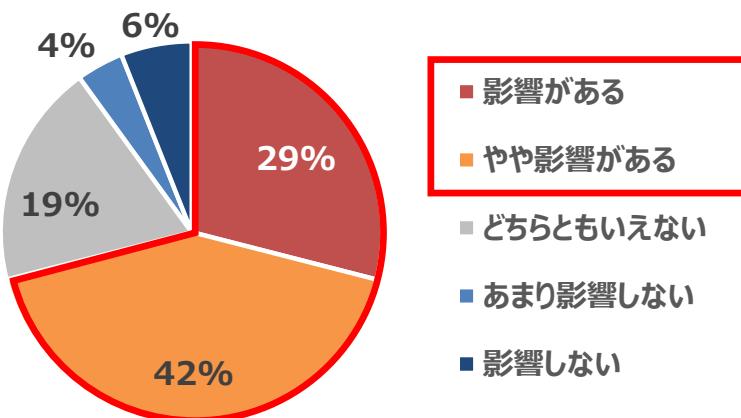
- |         |            |
|---------|------------|
| ・清潔さ    | ・嫌な臭いがしない  |
| ・空間のゆとり | ・小物・手荷物の場所 |
| ・明るさ    | ・洗面台の鏡の大きさ |
| ・室温     | ・洗面台の広さ 等  |

出典) 株式会社LIXIL、横浜市立大学調べ

## ＜トイレの使いやすさと利用する施設の選択の関係 (TOTO株式会社)＞

- トイレが使いやすい（広い、きれい、設備が充実している）ことが利用する施設を選ぶ際に「影響がある」・「やや影響がある」と回答した人の割合は71%に上る。

Q | トイレが使いやすい（広い、きれい、設備が充実している）ことは利用する施設を選ぶ際に、どのくらい影響しますか。（デパート・ショッピングセンターが対象）

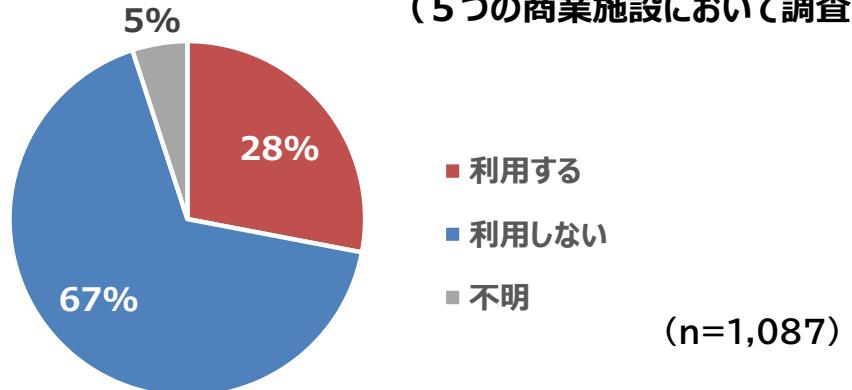


出典) TOTO株式会社調べ

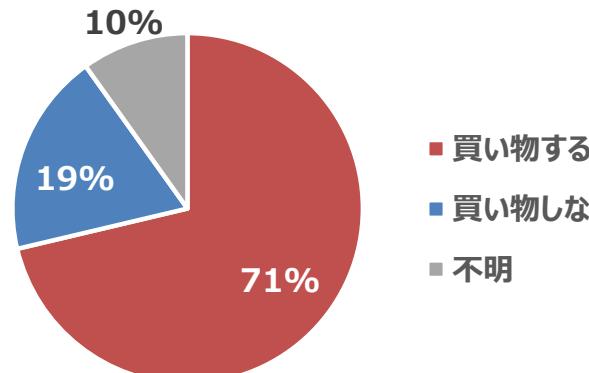
＜商業施設におけるトイレのみの利用  
(設計事務所ゴンドラ) ＞

- トイレの利用のみのために商業施設を訪れる人が約3割いる。また、トイレのみの利用の際に買い物を行うと回答した人は約7割いる。
- トイレには一定の集客効果があり、当該施設における消費も繋がっている。

Q | 商業施設のトイレのみ利用するか。  
(5つの商業施設において調査)



Q | トイレのみ利用の後に買い物を行うか。



出典) 設計事務所ゴンドラ調べ